

2019年3月期 中間決算説明会資料

株式会社島津製作所

代表取締役社長 上田輝久

中間決算ハイライト



中間期過去最高を更新

* 売上高・営業利益・経常利益・純利益の全項目で過去最高を更新。

計測・産機が牽引 医用も堅調

* 計測・産機が牽引。

* 計測は環境機器（特に中国）に加えてスペクトロ製品（SP）、ガスクロマトグラフ（GC）等が拡大。

欧米では液体クロマトグラフ（LC）と質量分析計（MS）が拡大。

* 産機はターボ分子ポンプ（TMP）・油圧機器・その他の全てが拡大。

* 医用もX線診断装置が堅調に推移。

収益性向上が持続

* 営業利益率も9.5%（前期9.2%）と収益性が向上。

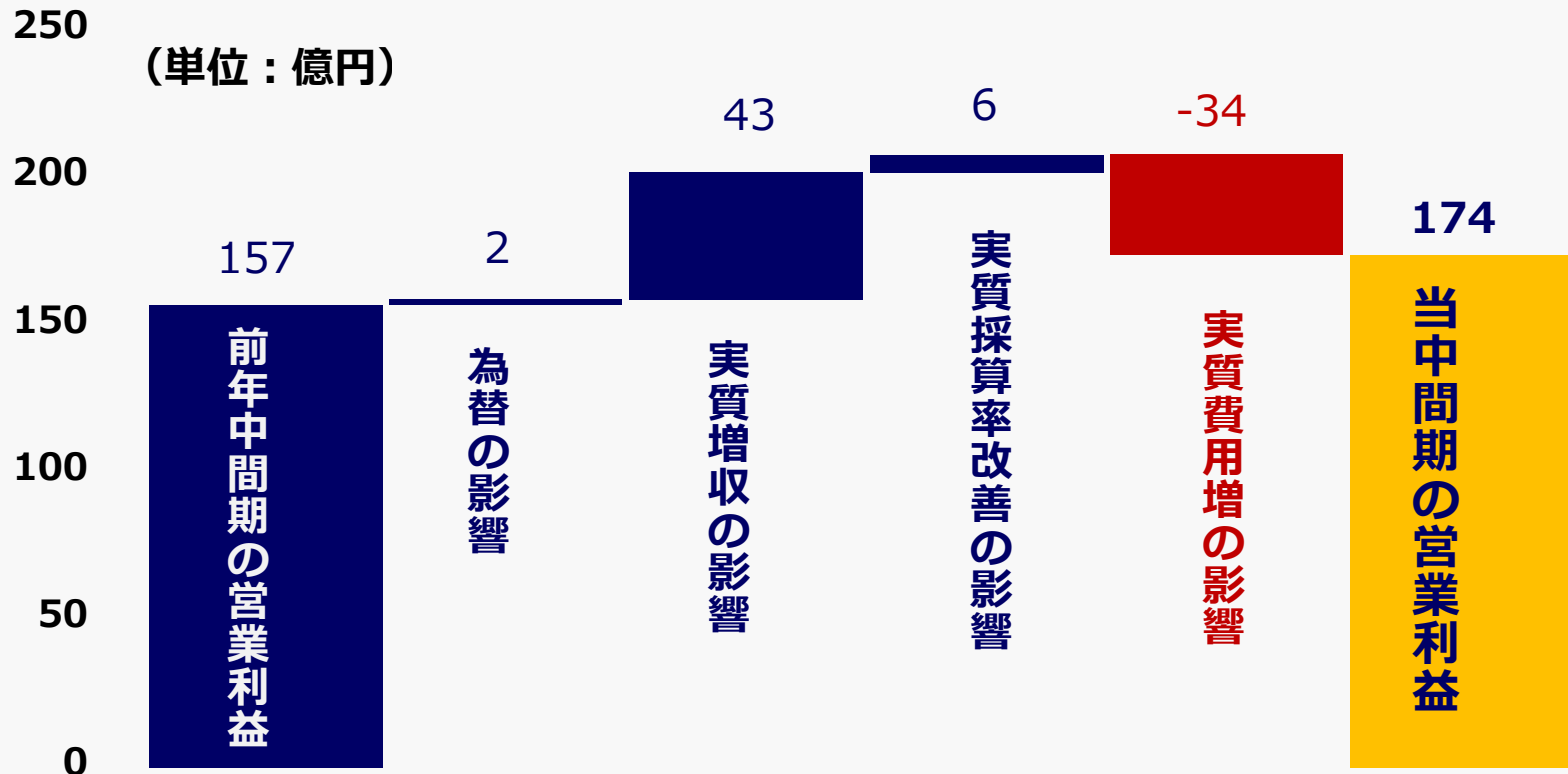
損益計算書

- * 売上高は1,829億円（前年差+108億円）、前年比 6%増
- * 営業利益は174億円（前年差+17億円）、前年比 11%増
- * 営業利益率は9.5%、前期比 0.3ポイント改善
- * 研究開発費は81億円（前年差+10億円）、
- * 設備投資は102億円（前年差+33億円）、減価償却費は56億円（前年差+4億円）

単位：億円, 除く営業利益率, EPS		中間期：4-9月					
		損益		前年同期比増加			
		2019.3期	2018.3期	円ベース		除く為替影響	
売上高	1,829	1,721	108	6.3%	110	6.4%	
営業利益	174	157	17	10.7%	15	9.3%	
営業利益率	9.5%	9.2%	0.3 Pts				
経常利益	187	156	31	19.6%			
親会社株主に帰属する四半期純利益	129	113	16	14.1%			
EPS	¥43.85	¥38.41	¥5.44	14.2%			
期中平均為替レート	US\$	¥110.32	¥111.13	¥-0.81	-0.7%		
	€	¥129.88	¥126.33	¥3.55	2.8%		
為替影響額				※営業利益の「為替影響額」・前期比増加の「除く為替影響」には、たな卸資産未実現利益消去の為替影響を含む。			
売上高	-2			※<為替感応度> US\$：売上高 12億円・営業利益 4億円, €：売上高 2億円・営業利益 0.7億円。			
営業利益	2						
研究開発費	81	71					
設備投資額	102	69					
減価償却費	56	52					

利益増減要因(2018.4-2018.9)

- * 為替の営業利益への影響は2億円。
- * この為替影響を除いた、実質的な増収の影響は43億円、また採算率改善の影響は6億円。
- * 一方、実質的な費用増の影響は**-34億円**。(このうち投資性の費用は21億円)



事業セグメント別損益

- * 計測・産業・医用の3セグメントは増収増益、航空は防衛の反動減が影響し減収。
- * 主力の計測機器は、収益性が更に改善し営業利益率は14.0%（前期13.8%）に向上。
- * 産業機器も、TMPに加えてガラスワインダー・真空熱処理炉などが好調、営業利益率は9.7%（前期9.1%）に向上。

単位：億円		中間期:4-9月							
		売上高・営業利益・営業利益率				前年同期比増減			
		2019.3期		2018.3期		円ベース		除く為替影響	
計測機器	売上高	1111	OPM	1040	OPM	71	6.8%	OPM	6.9%
	営業利益	156	14.0%	144	13.8%	12	8.6%	0.2Pts	7.5%
医用機器	売上高	326	OPM	306	OPM	20	6.6%	OPM	6.7%
	営業損益	7	2.1%	7	2.2%	0	3.2%	(0.1)Pts	-1.4%
航空機器	売上高	124	OPM	132	OPM	-8	-5.8%	OPM	-5.6%
	営業利益	-2	-1.8%	-2	-1.7%	0	—	(0.1)Pts	—
産業機器	売上高	228	OPM	205	OPM	23	11.4%	OPM	11.5%
	営業利益	22	9.7%	19	9.1%	3	18.6%	0.6%	17.6%
その他	売上高	39	OPM	38	OPM	2	4.1%	OPM	4.1%
	営業利益	2	4.4%	1	2.8%	1	68.8%	1.6Pts	68.8%
営業利益調整額		-10	—	-10	—	0	—	—	—
合計	売上高	1829	OPM	1721	OPM	108	6.3%	OPM	6.4%
	営業利益	174	9.5%	157	9.2%	17	10.7%	0.3%	9.3%

地域別売上高

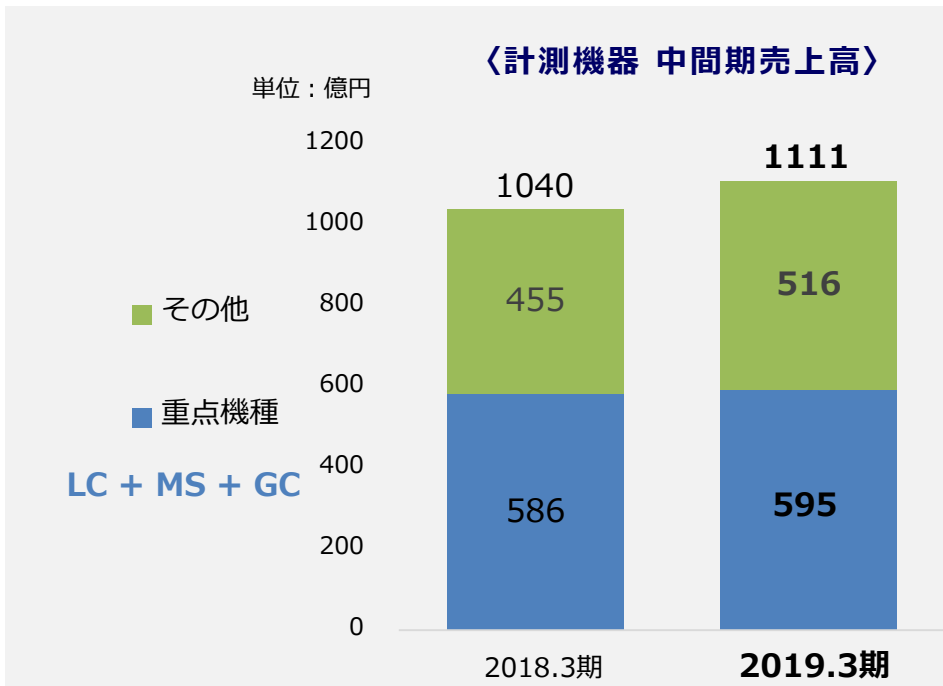
- * 国内は867億円で5%増、海外は961億円で8%増、国内外で堅調に拡大。
- * 海外売上高比率は52.6% で、前年比0.7ポイント増加。
- * 海外では、北米・欧州で、計測の主力であるLC及びMS、医用のX線テレビが牽引、中国は、計測の環境機器とGC、産業のTMPが牽引し業績を拡大。

単位：億円	中間期:4-9月						
	売上高		前年同期比増減				
	2019.3期	2018.3期	円ベース		除く為替影響		
日本	867	827	40	4.9%	40	4.9%	
米州	249	225	24	10.8%	26	11.4%	
北米	223	197	26	13.2%	27	13.8%	
欧州	146	125	21	17.0%	18	14.2%	
中国	357	329	29	8.7%	31	9.4%	
その他のアジア	163	164	-2	-0.9%	-1	-0.5%	
その他*	46	51	-5	-10.0%	-4	-8.0%	
合計	1,829	1,721	108	6.3%	110	6.4%	
海外売上高	961	893	68	7.6%	70	7.8%	
海外売上高比率	52.6%	51.9%					

* 「その他」：オーストラリア・中近東・アフリカ

計測機器 1/3 [サブセグメント売上高]

[計測機器売高] 1,111億円 ▶+7%	中国での環境機器やGC、欧米のLC及びMSを中心に拡大. SPも全世界で増加.
[重点機種売上高] 595億円 ▶+2%	LC・MSは北米・欧州で増加したが日本で停滞. 中国のLCも停滞、GCは国内外で拡大.
[その他] 516億円 ▶+13%	中国で汚染源対策強化を背景に、環境の水質モニターが大きく拡大.
[海外比率] ▶ 61%	日本6%増、海外8%増、内外でバランスよく拡大. 海外比率は、前期比同等.
[アフターマーケット比率] ▶ 31%	消耗品・サービスともに拡大. アフターマーケット比率は、前期比2ポイント向上.

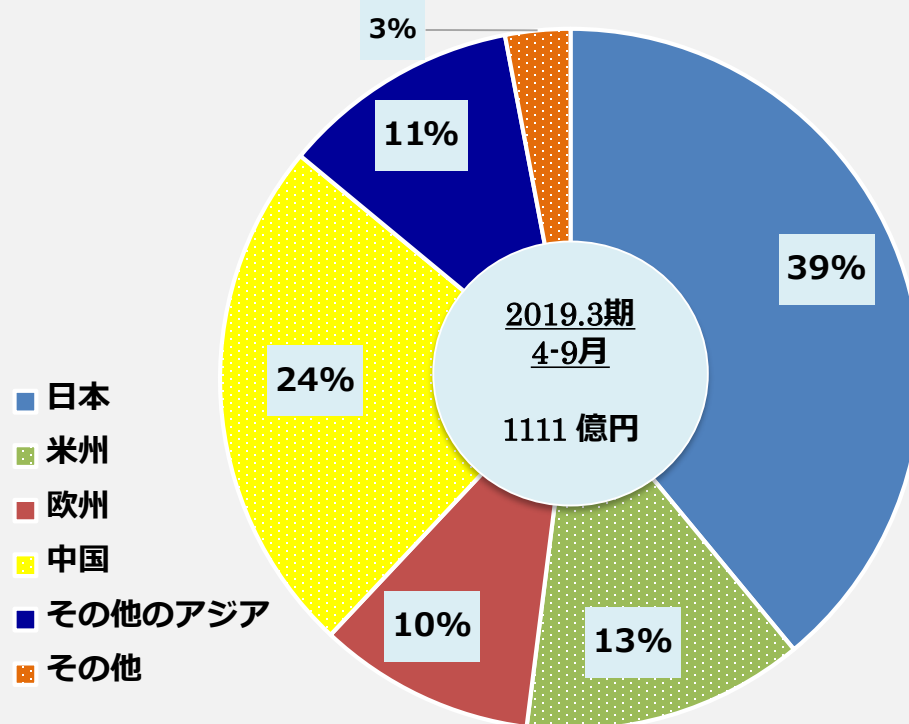


計測機器 2/3 [地域別売上高]

» 海外比率 61%

日本は6%増、海外は8%増、米州・欧州が牽引、中国も拡大。
海外比率は、前期同等の61%。

〈計測機器地域別売上高構成〉



YoY	
Total	: 7%
日本	: 6%
海外Total	: 8%
米州	: 11%
欧州	: 12%
中国	: 7%
その他アジア	: 3%
その他	: 0%

計測機器 3/3 [エンドマーケット]

- ① 「医薬・受託分析・ヘルスケア・食品」、
「素材・機械・電機・自動車」、「大学・
官公庁」をコアに安定した顧客層を構成。
- ② 「医薬・受託分析・ヘルスケア・食品」では、
受託分析では拡大したものの、それ以外は
やや停滞。
- ③ 「素材・機械・電機・自動車」では、素材分野
では好調であった一方、機械向け等が減少。
- ④ 「大学・官公庁」は日本を中心に減少。
- ⑤ 「その他」の増加は、分析機器顧客の裾野の
広がりによるもの。

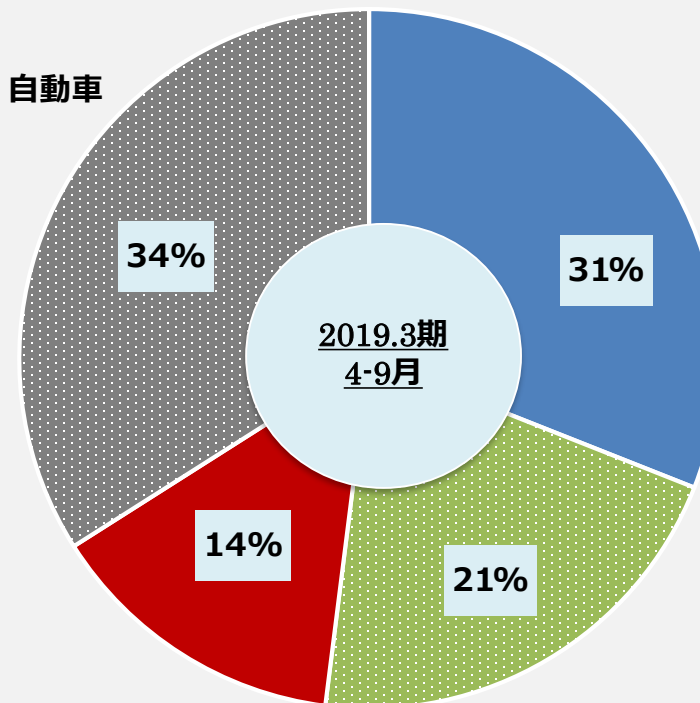
〈2019.3中間期 計測機器分野別売上高構成〉

■ 医薬・受託分析・ヘルスケア・食品

■ 素材・機械・電機・自動車

■ 大学・官公庁

■ その他



YoY

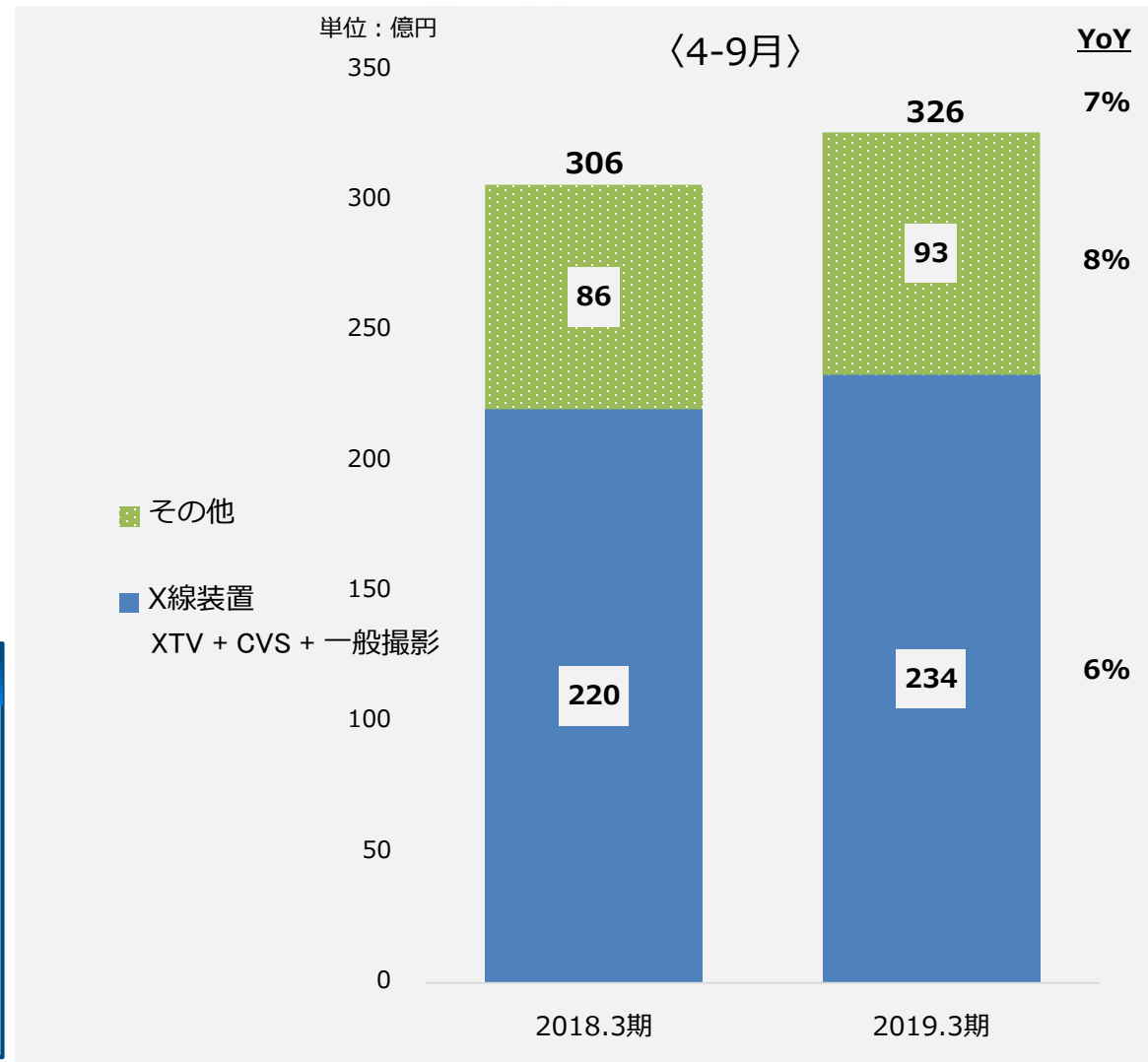
医薬・受託分析・ヘルス
ケア・食品：-3%素材・機械・電機・自動車
：-1%

大学・官公庁：-3%

その他：+15%

医用機器 1/2 [サブセグメント売上高]

- » **+ 7%** : **[医用機器売上高]**
X線装置が国内外で堅調に推移.
- » **+ 6%** : **[X線装置]**
X線TV・血管撮影が牽引、特に戦略機種種の血管撮影装置が国内で大きく拡大.
- » **30%** : **[アフターマーケット比率]**
アフターマーケット事業も拡大、但し血管撮影装置の拡大などで前期より比率は2ポイント低下.

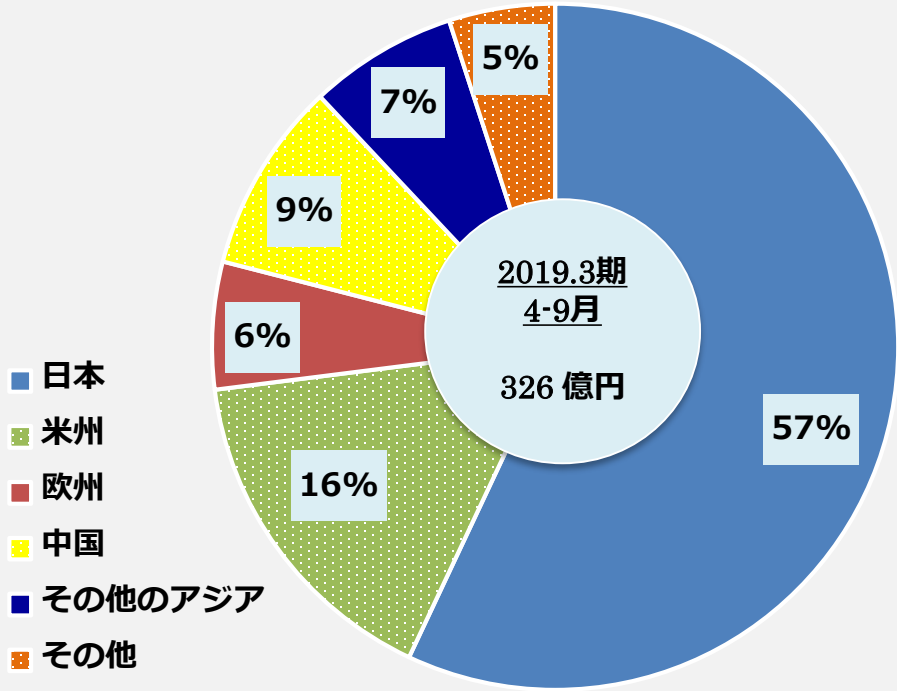


医用機器 2/2 [地域別売上高]

» 海外比率 43%

国内及び米州が拡大、欧州は前期から回復、一方中国は案件遅延等で停滞。
海外比率は、前期比1ポイント減少し43%。

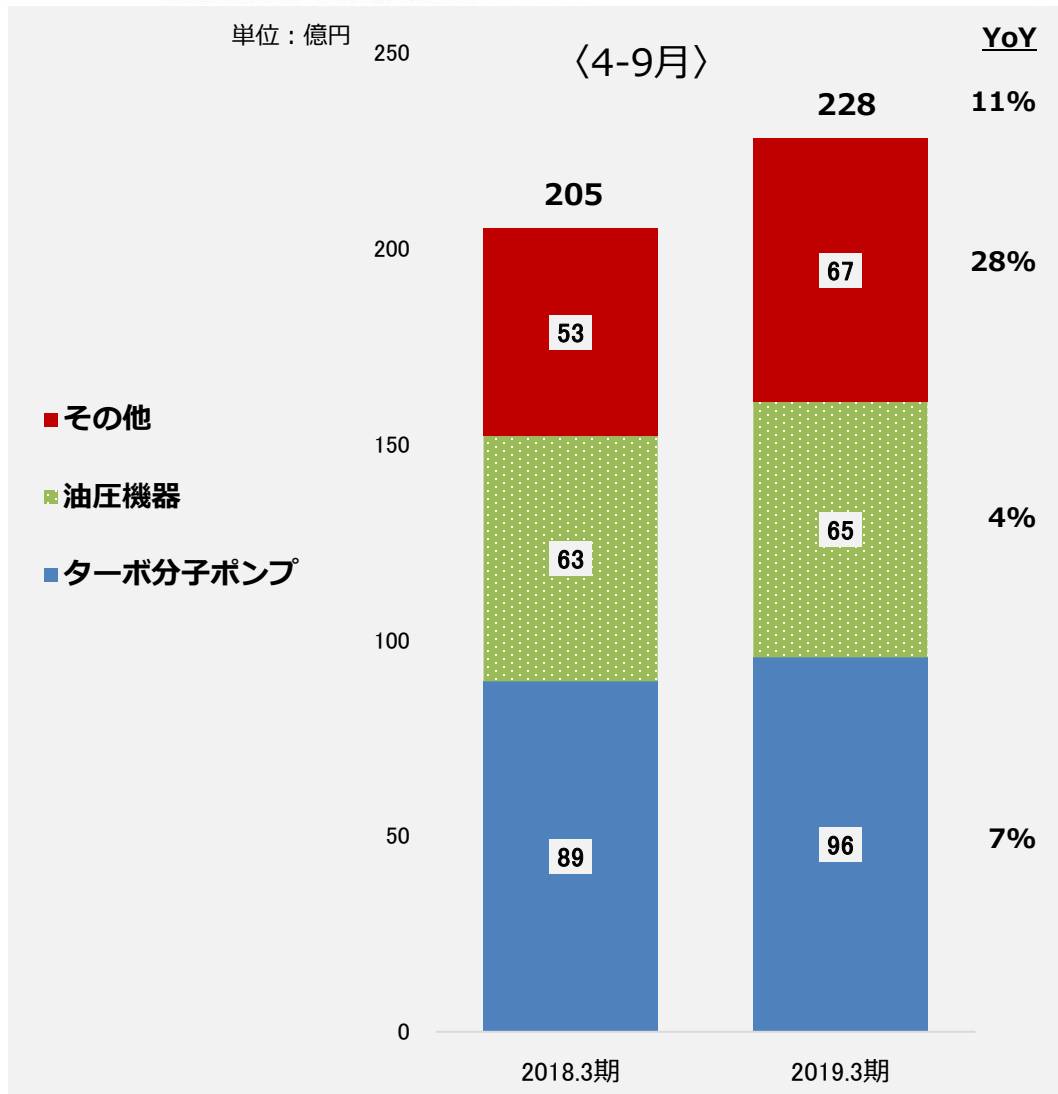
〈医用機器地域別売上高構成〉



YoY	
Total	: 7%
日本	: 8%
海外Total	: 4%
米州	: 7%
欧州	: 81%
中国	: -9%
その他のアジア	: 3%
その他	: -24%

産業機器 1/2 [サブセグメント売上高]

- » **+11%:** **[産業機器売上高]**
 ターボ分子ポンプ・油圧機器・その他の全てで、第1四半期を中心に拡大.
- » **+7%:** **[ターボ分子ポンプ]**
 半導体・フラットパネル分野等で拡大.
- » **+28%:** **[その他]**
 真空熱処理炉がセラミックス・超硬工具分野等で、またガラスワインダーも拡大.

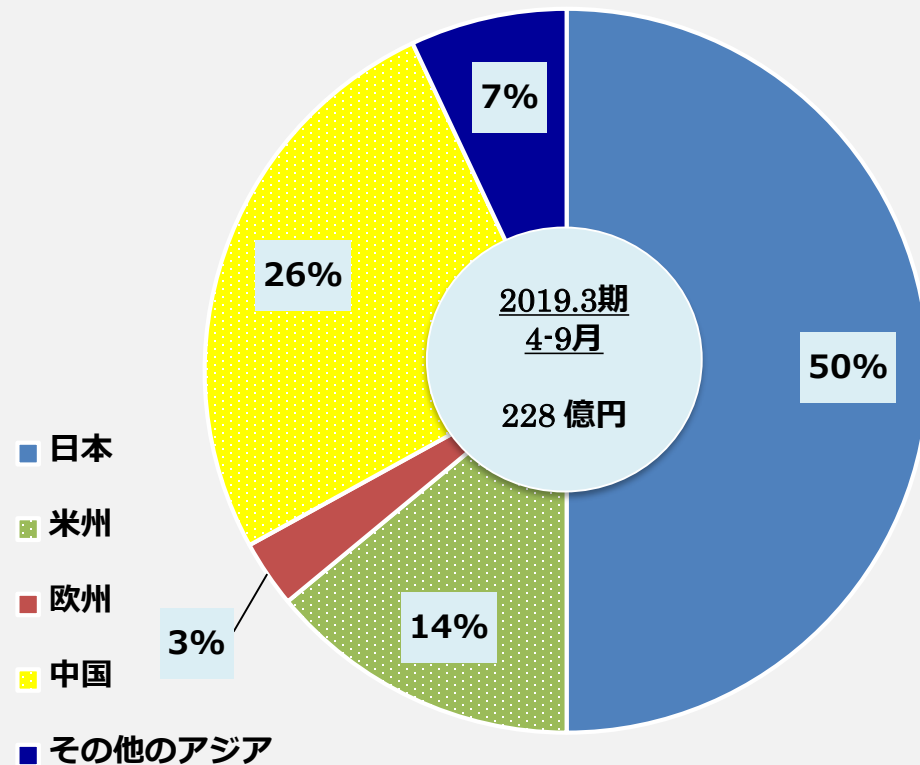


産業機器 2/2 [地域別売上高]

» 海外比率 50%

日・米ではターボ分子ポンプ・工業炉等が、中国ではターボ分子ポンプ・ガラスワインダーを中心に大きく拡大。海外比率は、前期比1ポイント減少し50%。

〈産業機器地域別売上高構成〉



YoY

Total : 11%

日本 : 13%

海外Total : 9%

米州 : 11%

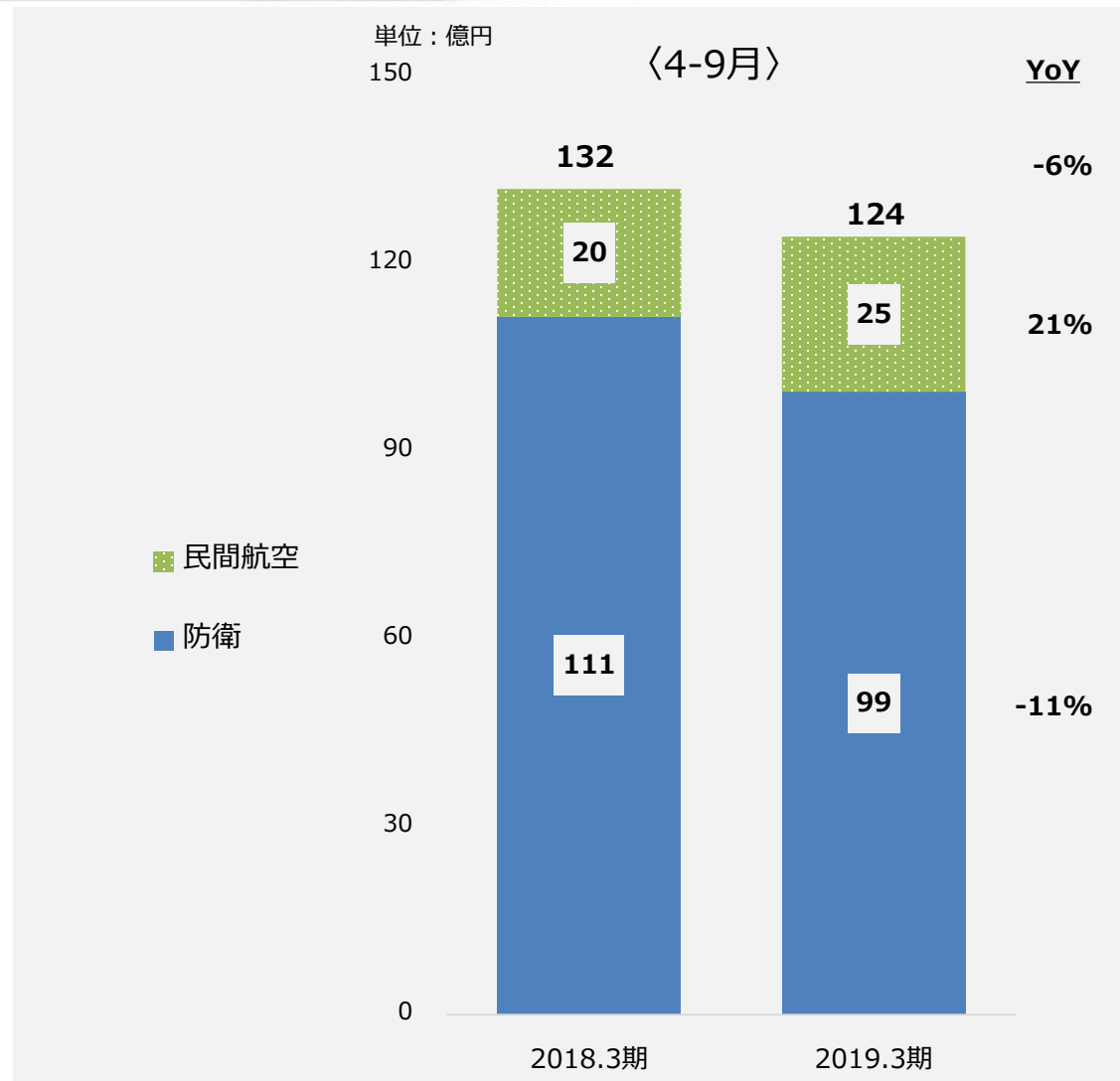
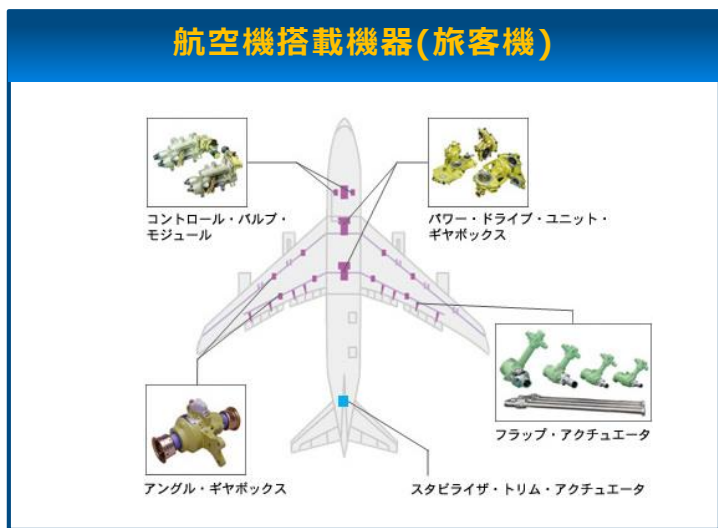
欧州 : -7%

中国 : 29%

その他アジア : -27%

航空機器 [サブセグメント売上高]






- » **-6%** : **[航空機器売上高]** 国内防衛事業は前年同期の反動で減少、一方ボーイング等旅客機向け搭載機器は拡大.
- » **-11%** : **[防衛事業]** 前年同期、海自哨戒機の搭載機器拡大(一括納入)、その反動等で減少.
- » **+21%** : **[民間航空事業]** 中小型機を中心にボーイング旅客機搭載機器等が拡大.



事業環境見通しと展開

2018年・2019年の世界経済は、3.7%成長と予想(10月のIMF「世界経済見通し」、前回7月の予想から0.2%ポイント下方修正)。貿易摩擦や通貨・金利の変動など不安定要因の強まりから、地域・国でのアンバランス化の拡大を示す。

※下表左欄の各国・地域の数字は、2018年10月に公表されたIMFによる2018年GDP成長率予想。カッコ内は前回2018年7月予想との比較。

 <p>日本 1.1%(+0.1pt)</p>	<p>民間設備投資に減速感があるものの、質量分析計の新製品拡大に注力、四重極飛行時間型質量計を食品安全等に、ガスクロマトグラフ質量分析計を化学等へ。また素材・自動車等での需要取込みにも注力。 〈リスク〉 東アジア地域での国際関係の不安定化</p>
 <p>米国 2.9%(±0.0pt)</p>	<p>好調な民需に加えて、大規模な財政刺激策もあり好況が続くと予想。質量分析計の新製品拡大に注力、四重極飛行時間型質量計をバイオ医薬等にガスクロマトグラフ質量分析計を化学等に展開。 〈リスク〉 保護主義的政策の強化、ドル高・金利上昇による企業投資マインドの後退</p>
 <p>ユーロ圏 2.0%(-0.2pt)</p>	<p>西側主要国での経済活動の弱まりが予想されるが、安定した需要が見込める残留農薬分析へのガスクロマトグラフ質量分析計の展開強化、また買収した仏試薬会社Alsachimとの試薬事業拡大等に取り組む。 〈リスク〉 一部の国での政治面の不確実性の高まり、移民問題の顕在化</p>
 <p>中国 6.6%(±0%)</p>	<p>産業の一層の高度化を目指した投資の増強が見込まれる中、石油化学や自動車分野の需要の深掘り、地表水等の環境需要に対応、また拡大が進む臨床医学分野での質量分析計の展開等に取り組む。 〈リスク〉 米中貿易摩擦の影響、金融規制の強化</p>
 <p>ASEAN 5.3% (±0.0%) インド 7.3%(-0.1%)</p>	<p>通貨下落や金融機関再編の影響が予想されるものの、FDA規制強化等インドでのジェネリック医薬への対応、また電気・電子・自動車での需要への対応を強化。 〈リスク〉 新興国通貨安影響の拡大</p>

新製品投入実績 / A. 計測機器：質量分析計の拡充を中心に新製品を展開

- * 新製品：製品のハイエンド・高付加価値化で新分野での需要開拓を推進 → 高分解MS, LCMS
- * ネットワークシステム：分析データの信頼性向上に寄与する新規システムを開発 → LbaSolutions i-Qlinks
- * アフターマーケット：高付加価値タイプ等LCカラムの拡充、新規試薬の投入

高分解MS



LCMS-9030
高精度・高安定性を実現したQ-TOFを発売。バイオ医薬などに展開。
2018.6

GCMS 3機種




GCMS NXシリーズ
高精度・高分解能、また優れた操作性を実現。3機種を投入、幅広く展開。
2018.9

MS解析ソフト



イメージリヴィールMS
膨大なMSイメージングデータから必要な情報を容易な抽出を実現。
2018.8

アミロイドβ受託分析



脳内のアミロイド蓄積度合いを推定する受託分析をスタート。治療薬や早期予防法の基礎研究等での導入を目指す。
2018.8

ネットワークシステム：LabSolutions i-Qlinks

- * ラボの試験業務を統合管理するLIMS機能を有したネットワークシステム、試験データ信頼性を向上



アフターマーケット事業：LabTotal

- * 塩基性化合物対応など高付加価値タイプを中心にLCカラムを大幅に拡充(2018年度中に3400品目に)。
- * 仏アルザシム(2017年買収)と免疫抑制剤分析キットを開発、欧州・日本で発売、米国でもFDA申請。



新製品投入実績 / B. 医用機器・産業機器：ラインアップを着実に拡充

- * 新規製品：製品ラインナップの拡充と新分野の開拓 → 産機のTMPやスパッター
- * 既存製品：シェアの獲得、応用分野の開拓 → 医用の回診用装置・血管撮影装置
- * アフターマーケット：メンテナンスサービスの拡充(医用機器 24時間・365日対応, 産業機器 TMP 等)

医用・血管撮影システム



Trinias unity edition

下肢全域の撮像で、血管だけを鮮明に表示する新機能。カテーテル治療のより安全かつ効率化に貢献。
2018.10

医用・回診用撮影システム



MobileDaRt MX8 Version

伸縮式支柱による小型化と走行性の向上、また最新の画像処理技術を備えたデジタル撮影装置。
2018.4

産機・TMP



TMP-5305シリーズ

付属の電源ユニットを小型化した半導体ドライエッチング装置向けターボ分子ポンプ。
2018.3

産機・スパッター



UHSP-OP2060

導入が増えると見られる自動車用HUD(表示装置)用ミラーの量産に適した高速成膜装置。
2018.6

平成30年度全国発明表彰を受賞

マンモPET「Elmammo Avant Class」が乳がん検査における身体的・心理的負担を軽減したとして高く評価。



2018 Frost&Sullivan New Product Innovation Award for Fluorescence Surgical Imaging For Breast Cancer

低侵襲手術、乳房再生、合併症治療などブレストケア全体への応用に「LIGHTVISION」の優れた特徴を高く評価。



業績予想

- * 期初公表を据え置く。
- * 営業利益については、中期経営計画を1年前倒して達成の見通し。
- * 6期連続の業績更新、過去最高業績達成を目指す。

単位：億円, 除く営業利益率, EPS	年間		前期比増加			
	2019.3期計画	2018.3期	円ベース		除く為替影響	
売上高	3,900	3,765	135	3.6%	169	4.5%
営業利益	450	428	22	5.1%	33	7.7%
営業利益率	11.5%	11.4%	0.1 Pts			
経常利益	440	419	21	5.1%		
親会社株主に帰属する当期純利益	320	298	22	7.2%		
EPS	¥108.63	¥101.26	¥7.37	7.3%		
期中平均為替レート	US\$	¥107.66	¥110.91	-3.25	-2.9%	
	€	¥129.94	¥129.75	0.19	0.1%	

為替影響額	2019.3期計画	2018.3期
売上高	-34	
営業利益	-11	
研究開発費	175	155
設備投資額	230	172
減価償却費	117	106

※ <為替感応度> US\$: 売上高 12億円・営業利益 4億円, € : 売上高 2億円・営業利益 0.7億円

事業セグメント別業績予想

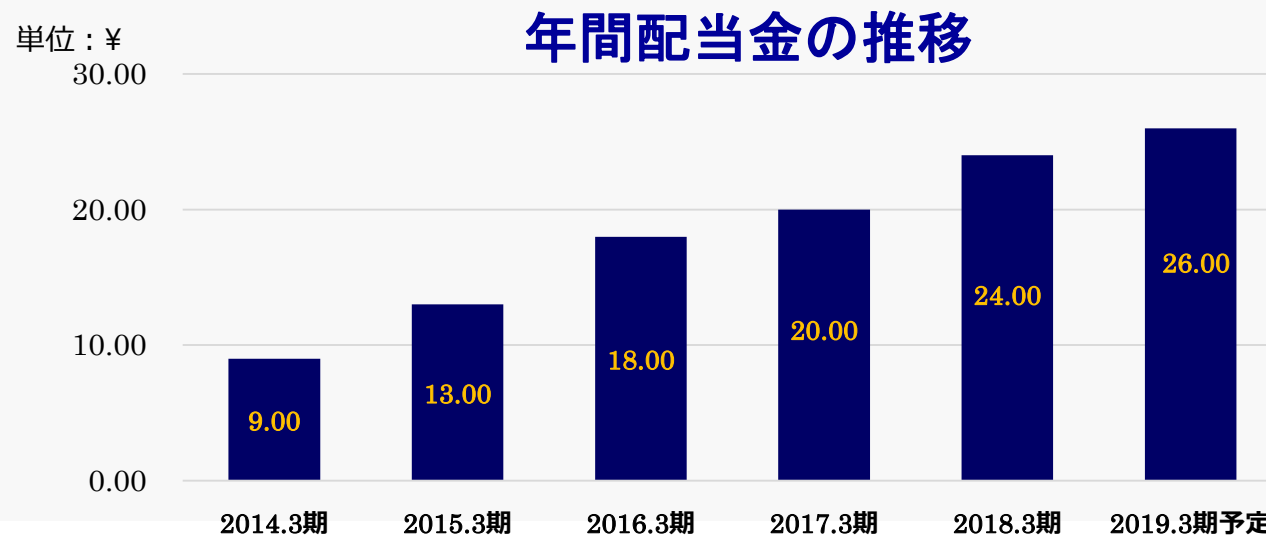
- * 計測・医用・産業の各セグメントで増収増益を予想。
- * 全セグメントで、収益性の向上を計画している。

単位：億円		年間				前期比増減		
		2019.3期計画		2018.3期				
計測機器	売上高	2,410	OPM	2,316	OPM	94	4.1%	OPM
	営業利益	388	16.1%	370	16.0%	18	4.7%	0.1 Pts
医用機器	売上高	695	OPM	659	OPM	36	5.4%	OPM
	営業利益	32	4.6%	27	4.1%	5	18.5%	0.5 Pts
航空機器	売上高	265	OPM	276	OPM	-11	-4.1%	OPM
	営業利益	8	3.0%	5	1.7%	3	67.0%	1.3 Pts
産業機器	売上高	465	OPM	442	OPM	23	5.2%	OPM
	営業利益	44	9.5%	41	9.2%	3	7.7%	0.3 Pts
その他	売上高	65	OPM	72	OPM	-7	-10.0%	OPM
	営業利益	8	12.3%	9	10.1%	-1	-10.2%	2.2 pts
営業利益調整額		-30	—	-24	—	-6	—	
合計	売上高	3,900	OPM	3,765	OPM	135	3.6%	OPM
	営業利益	450	11.5%	428	11.4%	22	5.1%	0.1 pts

配当金

- * 研究開発など成長に向けた積極的な投資とバランスをとり、株主への着実な還元を実施して行く。
- * 中間配当は1株13円を実施、前年同期より2円増配。
- * 期末配当は前年同期と同等の1株13円を予定。

	2019.3期		2018.3期		前期比
	中間期	期末予定	中間期	期末	年間
一株当り配当金	¥13.00	¥13.00	¥11.00	¥13.00	¥2.00
配当性向	23.9%		23.7%		0.2ポイント増



重点事業戦略

1. 革新的製品・サービス、新事業の創出

2. 研究開発の拡充

- A. 中期経営計画下での研究開発・設備投資の推進
- B. グローバルに展開する研究開発
- C. アドバンストヘルスケアの推進

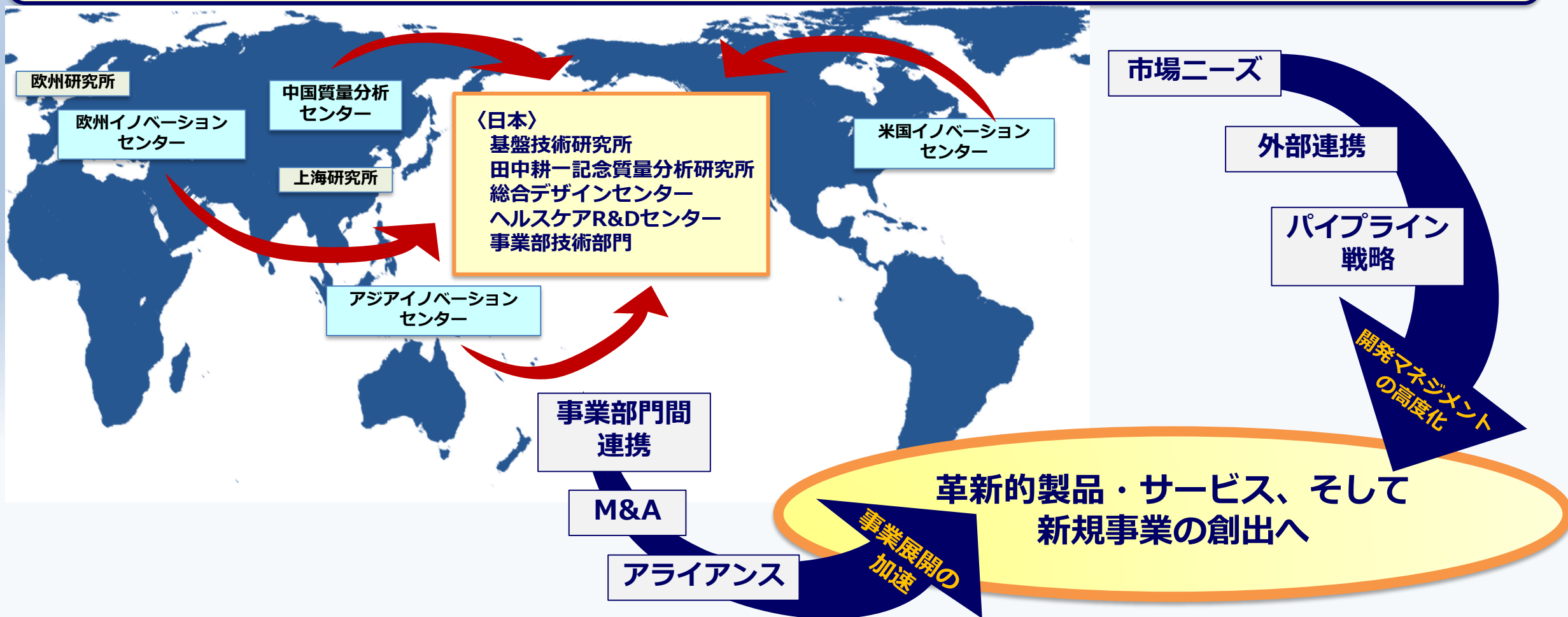
3. 事業活動を通じたSDGsへの貢献

- A. 環境分野
- B. 社会分野

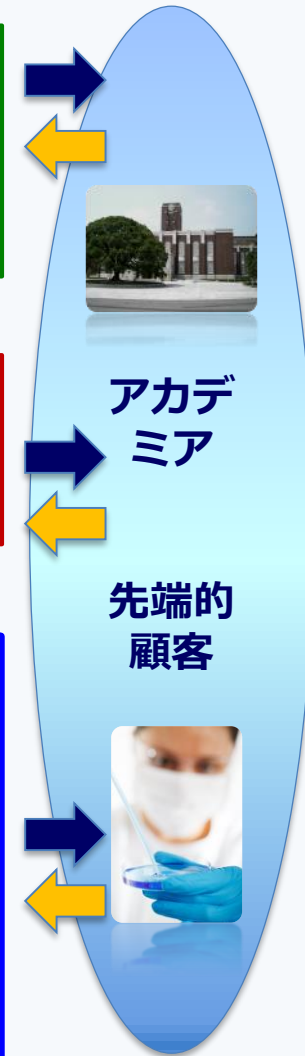
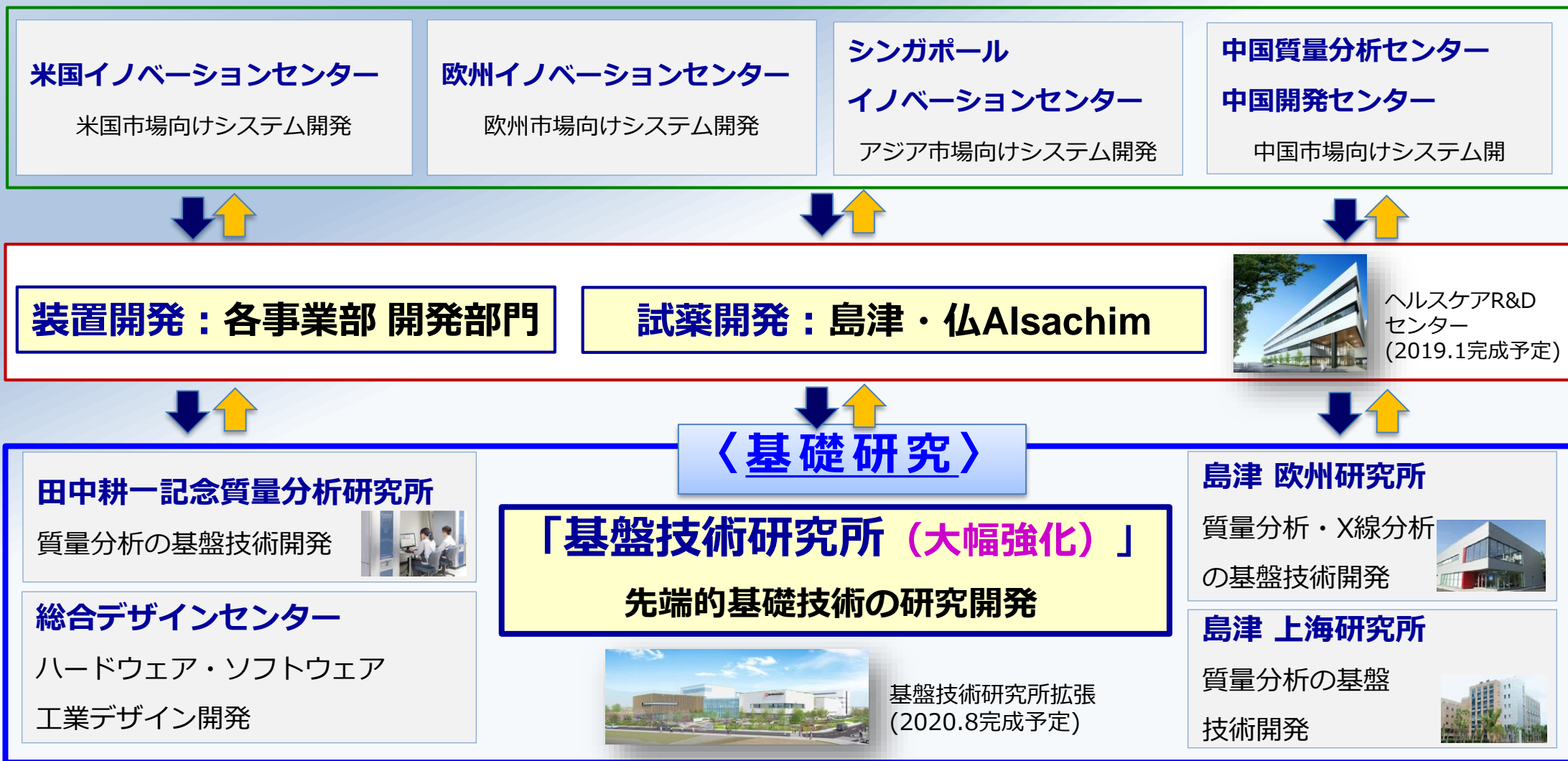


1. 革新的製品・サービス、新規事業の創出

- * 革新的製品・サービス、また新規事業の創出力の一層の向上に取り組む。
- * その中核となる研究開発の強化・拡充を推進。



2. 研究開発の拡充 / A. グローバルに展開する研究開発



2. 研究開発の拡充 / A. 中期経営計画下での研究開発・設備投資の推進

【研究開発の推進・方向性】

ヘルスケア分野を中心に、最先端研究機関との共同開発を加速。

中期計画に沿った研究開発投資を推進、3ヶ年で530億円の研究開発費を計画。

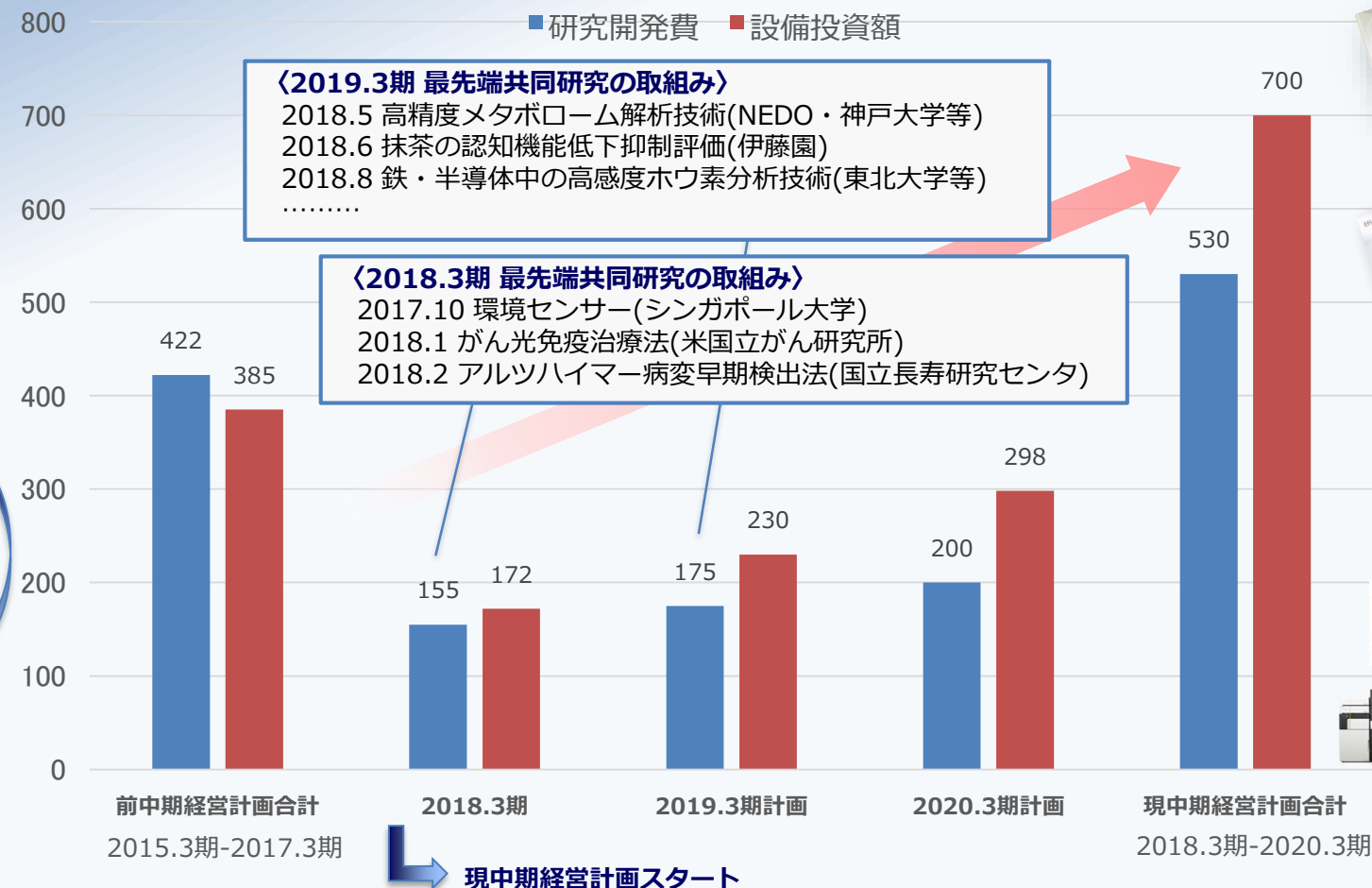
ヘルスケアR&Dセンターや基盤技術研究所など、研究開発環境・設備の整備を推進。

革新的新製品の創出と、分析・診断・治療等での新規アプリケーションの実用化に結実して行く。

〈設備投資の推進〉

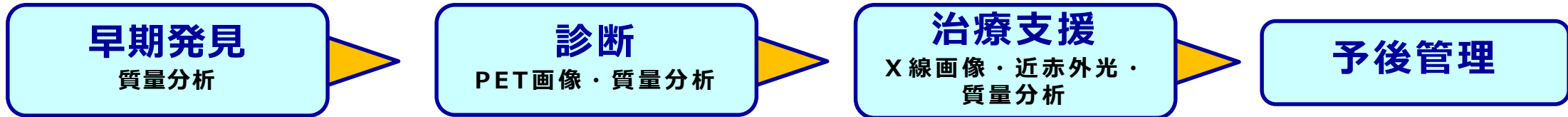
- *ヘルスケアR&Dセンター新設
- *基盤技術研究所拡充
- *島根島津拡充(医用機器生産)
- *島津プレジジョン拡充(産機TMP生産)
- *基幹系システム増強……


単位：億円



2. 研究開発の拡充/C. アドバンストヘルスケアの推進（概要）















重大疾患の早期発見・診断また治療の促進に取組み、社会課題の解決に貢献。



<p>がん</p>	<p>〈MSがんスクリーニング〉 大腸がん・乳がん・すい臓がん・肝臓がん・胃がん・肺がん</p>	<p>〈PET画像診断〉  乳がん 〈MS術中診断支援〉 肝臓がん</p>	<p>〈がん光免疫治療支援〉 治療効果測定 </p>	<p>〈MS経過観察〉 再発・転移の有無</p>
<p>生活習慣病</p>	<p>〈MS疾患スクリーニング〉 非アルコール性脂肪性肝疾患 糖尿病腎症</p>	<p>強力な質量分析計ラインアップ </p>	<p>〈原発性アルドステロン症治療支援〉 高血圧症 </p>	<p>〈MS投薬管理〉 臓器移植・自己免疫疾患</p>
<p>精神疾患</p>	<p>〈MS認知症スクリーニング〉 軽度認知症(MCI) アルツハイマー病 うつ病</p>	<p>強力な質量分析計ラインアップ </p>	<p>〈IRリハビリの効果測定〉 軽度認知症(MCI) 〈MS創薬研究支援〉 アミロイドβスクリーニング</p>	<p> </p>
<p>〈健康寿命延伸に向けた統合的な健康管理サービス〉 スマートデバイスによる健康情報, 体質に基づくリスク情報, 機能的食品情報</p>				

2. 研究開発の拡充/C. アドバンストヘルスケアの推進（進捗）

- ・ 質量分析技術をコアに、がん・アルツハイマー等の早期スクリーニング検査装置の共同開発を推進、2018年10月より事業化に着手。
- ・ 質量分析・画像診断・近赤外等の分析・医用の技術融合でがん治療等の共同開発を推進中。
- ・ 2017年4月に買収した仏Alsachimを中心に試薬事業の拡大を推進。

			2018.3期	2019.3期	2020.3期
バイオマーカー検査	がん	大腸がんスクリーニング検査の事業化			
	生活習慣病	非アルコール性脂肪性肝疾患の研究			
	精神疾患	認知症物質アミロイドβ受託分析の事業化 軽度認知症診断事業(MCBI社への出資) カテキンの認知症抑制効果の研究(伊藤園と共同)			
分析-医用融合装置	がん治療装置	光免疫治療の研究支援(米国立がん研究所)			
	治療システム	原発性アルデステロン症の治療支援(東北大学)			
試薬・消耗品事業	安定同位体・血中薬物モニタリング(仏Alsachimを買収)				
	消耗品				
その他	微生物同定MALDI-MS, SNPs解析等				

3. 事業活動を通じたSDGsへの貢献



島津の事業による 貢献度が高いSDGsの目標



「すべての人に健康と福祉を」

アドバンストヘルスケアの取り組み

高度な質量分析技術を応用し、がん・生活習慣病・アルツハイマー病などの重大疾患の早期発見に取り組む。また免疫用製剤・抗てんかん剤等の血中薬物モニタリング（試薬）も展開。



「気候変動に具体的な対策を」

ガスクロマトグラフ質量分析計

食品包装や電子・電器機器で使用制限されるフタル酸エステルを簡便に分析。
赤外分光光度計
廃プラスチック材を種類毎に、瞬時にオンラインで選別、再資源化に貢献。



3. 事業活動を通じたSDGsへの貢献 / A. 環境分野

分析・計測技術を活用し、地球環境保全への貢献

6 安全な水とトイレ
を世界中に



ターゲット6.3

- 水中の環境汚染物質の測定、モニタリング
- 水、大気、土壌中の環境汚染物質や環境ホルモンの測定、モニタリング
- 排水管理（半導体製造などの洗浄工程における不純物金属のモニタ機器）



オンライン全窒素・全リン計

11 住み続けられる
まちづくりを



ターゲット11.6

- 環境保全・規制に向けた測定やモニタリング
- RoHS規制対応
- 環境に優しい新素材開発を支援



ガスクロマトグラフ質量分析計

12 つくる責任
つかう責任



ターゲット12.4

- 水、大気、土壌中の環境汚染物質や環境ホルモンの測定、モニタリング
- 製品中部材のRoHS規制への対応



液体クロマトグラフ質量分析計

3. 事業活動を通じたSDGsへの貢献/ B. 社会分野

分析・計測・医用技術を活用し、予防医学の実現や食の安全、診断の向上へ貢献

3 すべての人に
健康と福祉を



ターゲット3.2

- 新生児の先天性異常及び疾患の早期診断への貢献
- 新生児用診断機器の提供

ターゲット3.4

- がん・心血管疾患などの診断制度の向上・治療の支援
- 治療薬開発の支援
- 予防医療に向けた代謝物分析
- 機能性食品開発支援

ターゲット3.5

- 薬物の乱用の防止・治療

ターゲット3.9

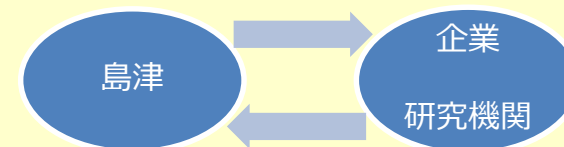
- 環境、食品中の有害化学物質の検出



液体クロマトグラフ質量分析計



ガスクロマトグラフ質量分析計



研究開発分野を対象とした、血液から脳内アミロイド蓄積を推定する受託分析サービス



乳房専用PET装置 エルマンモ



心臓血管撮影システム トリニクス



近赤外光イメージング装置



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。